

R-ネット瓦版 第9号

『広島市北部の医療と医療連携』

広島市立安佐市民病院のある広島市安佐北区は人口約15万5千人で、広島市8区の中では3番目に人口の多い区ですが、広域な広島市の中では面積が最も広く、中山間地域を含む市街地と過疎地の混在する地域です。高齢化は急速に進んでおり、平成20年の統計では65歳以上の高齢化率は20.8%と8区の中で最も高くなっています。安佐北区の北端に位置する私の内科診療所も例外ではなく、通院される患者さんの中心は高齢者の方々です。また、安佐北区には老人入居施設も多く、発熱や脱水等で急変した高齢者の患者さんが安佐市民病院に運びこまれることも少なくないと思われませんが、必要な情報が伝わらず、病院の先生方を困惑させている様です。地域の高齢者医療を充実させるためには、病診間のみならず介護施設ともこれまで以上に十分な連携をとることが、医師会としても今後対処していかなければならない課題と考えております。

国は、日常生活圏で通常の保健医療需要を充足できる圏域として二次保健医療圏を設定することとしており、広島県には7圏域設定され、広島市は安芸高田市、安芸太田町、北広島町等8市町で構成される広島圏域に属しています。その圏域の中でも安佐市民病院は、地域医療支援病院として安佐地区を中心とした地域の病院・診療所との連携や、後方支援に多大な貢献をさせていただいております。しかしながら、実際の仕事ぶりからみると、広島圏域のみにとどまらず三次・庄原など広島県北部、島根県南部も含め、圏域を越えた広島県北部全体の大きな砦としての拠点病院であります。広島県の医師不足は県北部の病院で特に著しく、地域住民の方々安心して生活されるためには、安佐市民病院の役割は非常に大きいと思われれます。現在、内科の専門医が削減されたJA吉田総合病院や安芸太田町加計病院の内科の先生方と話し合いの場も造られており、病院間のさらなる連携が今後期待されるところであります。

また、平成20年3月の広島県保健医療計画(第5次改正版)では、地域医療の機能分化と役割分担として、地域の中核病院を中心とした地域医療連携や地域連携クリティカルパスの普及・推進が謳われています。このことは、地域の医療連携ネットワークを構築することで、地域完結型医療をめざす事と考えられます。安佐地区では、安佐市民病院を中心としてクリティカルパスの普及も含め緊密な医療連携が進められており、今後さらに推進されるものと思われれます。



これらの機能が円滑に働くためには病院が元気でないとはいけません。特に勤務医の先生方が過重労働にならない様配慮する必要があります。診療所医師の時間外診療への参加など今後、病院・診療所の間でそれぞれの役割分担がさらに必要になってくるものと思われれます。病診間の協力関係をさらに密にしていきたいと考えておりますので、その中心である安佐市民病院がいつまでも元気な病院であり、さらに飛躍されることを願っております。

(安佐北区医師会会長 吉川 正哉)

☆緩和ケア外来が新設されました☆

安佐市民病院では、本年4月から緩和ケア外来を開設いたしました。

1980年代初頭以来、我が国の死亡原因は脳疾患、心血管疾患を抜いて悪性新生物が第1位を占め、年間2万人弱の方が癌により亡くなっており、減少傾向は見られていません。

平成18年、我が国ではがん対策基本法が施行され、全国どこにあっても均てん化されたがん医療が受けられるよう、国および地方公共団体は体制を整えなければならず、また、医療従事者には国および地方公共団体の施策に協力し、良質かつ適切ながん医療を提供する事が求められるようになりました。

がん対策基本法の基本理念には、がん患者の置かれている状況に応じ、本人の意向を十分に尊重して治療方法が選択されるよう、体制の整備がなされることが掲げられています。

さらに、がん患者の療養生活の質の維持向上に関しては、第一六条「国及び地方公共団体は、がん患者の状況に応じて疼痛等の緩和を目的とする医療が早期から適切に行われるようにすること、居宅においてがん患者に対しがん医療を提供するための連携協力体制を確保すること、医療従事者に対するがん患者の療養生活の質の維持向上に関する研修の機会を確保すること、その他のがん患者の療養生活の質の維持向上のために必要な施策を講ずるものとする」と記載されており、疼痛緩和に関しても早期から適切に提供され、患者の療養生活の質の維持向上のため、地域医療の連携協力体制の確立も求められています。

当院では、このような社会的な背景を鑑み、従来通り地域医療の中核病院として良質で適切な癌医療の提供は継続しながら、がん疼痛緩和のみならず療養生活の質の向上を目指して、緩和ケア外来を新設する事になりました。

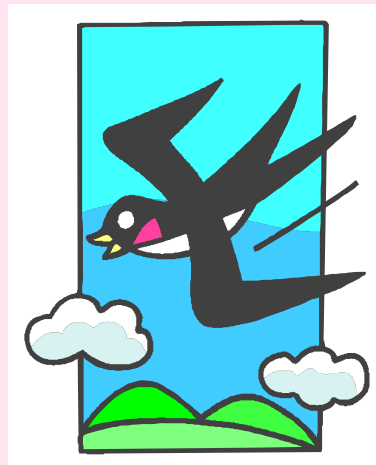
緩和ケア外来は、毎週月曜日の午後からの診療となります。医師は、藤本真弓先生が担当いたします。藤本先生は緩和医療においては著名な先生で、県立広島病院の緩和ケア支援センター設立の準備段階からご尽力され、現在は広島市内でペインクリニックを開業されています。



当面は、当院にて癌治療を継続されている患者さまを対象に疼痛緩和治療を開始いたしますが、将来的には地域医療機関からのご紹介にも対応して行く予定です。

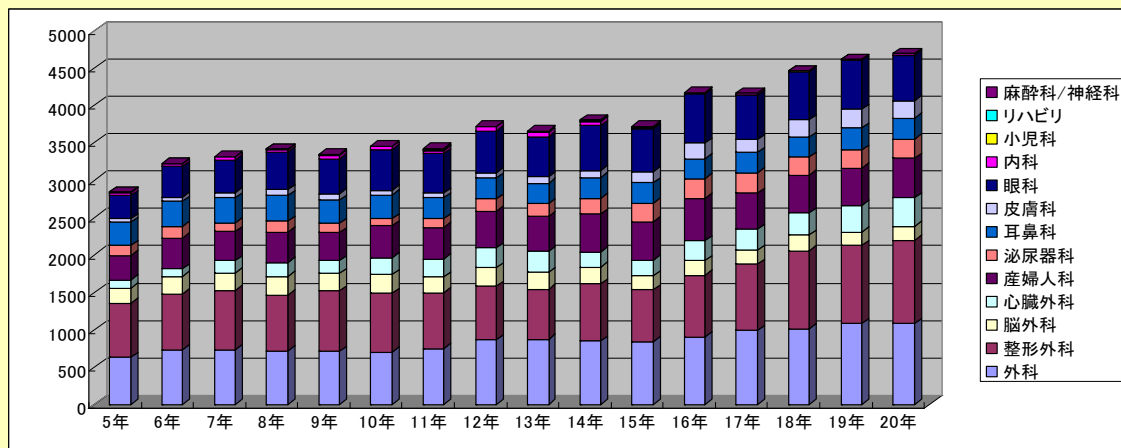
その際には広報いたしますので、癌疼痛の症状緩和でお困りの患者さまがおられましたら、是非ご紹介ご相談をお願いいたします。

(緩和ケアチーム 薬剤部主任部長 長崎 信浩)



◇◇中央手術部と手術件数◇◇

中央手術部は患者様の治療上必要な手術を集中的に行い、周手術期を通して安心して安全な治療、ケアを提供出来るようスタッフ一同協力し、日々の手術にあたっています。手術を行う部屋は当院開設当初6室でしたが、平成3年に増築され、現在8室で手術を行っています。下記のグラフは、手術統計を取り始めた平成5年からの年間集計を示しています。



平成5年には年間2,800件あまりの手術件数でしたが徐々に件数を増やし、20年には4,700件と15年間で1,900件増加しています。手術は、地域の医療機関からの紹介や、緊急手術を受けられています。手術室のスタッフは麻酔科医師10名、看護師31名、看護業務員3名、事務業務員1名、医療クーク1名で、この4月には新たに新人看護師6名が配属になり、ますます活気付いています。手術を受けられる患者様のニーズに添えるよう入室方法の検討や、麻酔科医師、手術室看護師共に術前術後診察・訪問の充実が心がけています。

平成12年より行っている歩行入室は、手術を受ける患者様の緊張を和らげ大変好評です。また、平成17年12月から稼働している電子カルテにより、患者認証をシステム的にカバーし、より安心な手術の提供につながっています。手術室の運営にあたっては運営委員会が毎月1回行われて、様々な問題解決に取り組んでいます。

(中央手術室師長 平 敦子)

◇◇麻酔科と麻酔件数◇◇

当院には、10名の麻酔科医師が勤務していますが、集中治療室に2名、麻酔の術前診察に1名が従事しているため、通常麻酔の仕事は7名で行っています。過去三年間に麻酔科で管理した全身麻酔並びに脊椎麻酔の症例数は、右表の様になっています。

	麻酔科管理 症例数	緊急 手術数
2006年	3,122	389
2007年	3,226	356
2008年	3,371	421

人口の高齢化と手術を行う病院の集約化により年毎に麻酔科管理の症例数が増加しています。当院の手術部には手術室が8室ありますが、さらに手術症例を増やすためには施設的にも麻酔科医の数も限界に近づいており、手術室の建て増しや麻酔科医の増員が必要な状態です。広島県の現状を見てみると、当院より北で、常勤で働いている麻酔科医師の数は、吉田総合病院に1名、三次中央病院に3名のみで、庄原赤十字病院には常勤医師がいなくなりました。当院より北には一年365日、昼夜を問わずすべての科の緊急手術に対応できる病院は存在しなのが現状です。そのため、今後とも広島県北部の拠点病院として、当院の重要性は高まってゆくものと思われれます。

(麻酔科主任部長 木下 博之)

各診療科のご紹介シリーズ第9回 《泌尿器科》

当院泌尿器科は昭和57年に新設され、泌尿器科疾患全般を対象に加療してきました。

最近では前立腺がんをはじめとする泌尿器がんの増加に伴い、泌尿器がんの診断と治療が中心となり、最近の3年間では手術件数の約8割が泌尿器がんに対する手術です。

主な泌尿器がんに対する手術件数と前立腺針生検数

	H15	H16	H17	H18	H19	H20
手術総数	246	261	270	241	248	267
根治的腎摘除術(体腔鏡)	14 (7)	17 (10)	10 (3)	16 (8)	18 (10)	11 (6)
腎部分摘除術	1	1	3	3	5	8
腎尿管全摘除術(体腔鏡)	4 (3)	10 (2)	8 (4)	9 (7)	9 (3)	14 (6)
経尿道的膀胱腫瘍切除術	92	106	120	102	119	129
膀胱全摘除術(回腸新膀胱)	4 (1)	3 (2)	0	5 (3)	11 (1)	8 (2)
前立腺全摘除術	42	29	32	40	28	29
前立腺針生検	293	247	231	225	223	220

当科ではエビデンスに基づいた標準的治療を基本理念に泌尿器がんの治療を行っていますが、進行癌が多いのも当科の特徴であり、難治例に対しては積極的に欧米の最新治療を取り入れた集学的治療にチャレンジしています。

腎がんは、毎年20例前後の新規腎がんが診断され、根治手術を施行しています。昨年は19件の根治手術を施行し、うち体腔鏡手術が6例と腎温存手術が8例と、患者さんの負担を軽減するように心がけています。また、進行癌も多く、免疫療法、外科的摘除に加えて、昨年から使用可能になった分子標的治療薬を用いた集学的治療に積極的に取り組んでいます。

膀胱がんは、表在性膀胱がんに対して経尿道的に腫瘍を切除し、浸潤がんに対しては根治手術と尿路変更を行っています。昨年は129件の経尿道的切除と8件の膀胱全摘除術、

2件の膀胱部分切除術が行われました。膀胱全摘除術後の尿路変更は回腸導管5例、回腸新膀胱2例、尿管皮膚瘻1例でした。また、進行癌に対しては放射線科と協力し、抗癌剤の動脈注射を併用した放射線治療や全身化学療法を行っています。

前立腺がんでは、昨年220件の前立腺針生検を施行し、新規前立腺がん101例が診断されました。29例に根治手術が施行され、12例が放射線治療を受け、48例が内分泌治療で加療され、16例は待機治療です。また、ホルモン不応性前立腺がんに対して積極的に外来化学療法を行い、昨年は22例に達しました。経過観察中の患者さんを含めると昨年1年で731例の前立腺がん患者さんが当科で加療されています。

当科の特徴はがん患者が多いことですが、排尿障害や尿路結石等の良性疾患に対しても、標準的な治療を行っています。残念なことに当院には体外衝撃波による結石破砕装置がありませんので、破砕する必要がある場合は他院(広島共立病院・たかの橋中央病院・中電病院・大学病院など)に治療を依頼しております。また、小児の泌尿器科疾患はあまり経験がなく、主として広島市民病院の小児外科に紹介しています。

本年4月からは植木部長に代わり加藤医師が赴任しました。加藤医師は排尿障害、特に女性の尿失禁や間質性膀胱炎など、従来当科で不得手にしていた分野が専門であり、今後さらに広いニーズに対応できるものと期待しています。

今後とも地域の先生方のご指導ならびにご協力をいただきながら、より地域のニーズに答えるべく努力を続ける所存でございますので、引き続き宜しく願いいたします。

スタッフ紹介

中本 貴久 (主任部長) : 昭和56年卒。泌尿器がん、男性機能障害。

加藤 昌生 (副部長) : 平成8年卒。排尿障害、Female Urology。

瀬野 康之 (医師) : 平成15年卒。

泌尿器科外来

外来は月曜日の午前、火曜日・木曜日・金曜日の午前・午後に行っています。月曜日の午後と水曜日の午前・午後は手術のために外来を行っておりません。急を要する場合は、可能な限り対応いたしますが、対応できない場合もありますのでご了承ください。

泌尿器科外来診療担当表

	月	火	水	木	金
1診	加藤	中本		中本	中本
2診		加藤		加藤	瀬野

(泌尿器科主任部長 中本 貴久)



《眼科》

みなさま、こんにちは。平成9年4月から、安佐市民病院に勤務しています眼科主任部長の末廣龍憲です。昨年1月～12月の手術室で行った件数は606件で、白内障手術が主体ですが、網膜硝子体手術や緑内障手術も行っています。その他外来でのレーザー治療等を含めると、800件程度となっています。現在眼科は私を含め医師3名、外来は看護師2名、視能訓練士2名、受付1名です。入院患者様は、南4病棟でお世話になっています。4月より医師2名の異動がありました。医師、南4病棟師長（副看護部長）と外来スタッフの自己紹介をさせていただきます。

スタッフ紹介

末廣 龍憲（主任部長）：昭和58年卒。
石田 由美（医師）：はじめまして、平成9年に川崎医大を卒業、悩みに悩んで広島大学眼科に入局。大学以外では尾道・呉を経て、県立広島病院より赴任となりました。最近海外ドラマにはまって、続きが気になる日々を過ごしています。

北野 徳子（医師）：平成18年卒。はじめまして、4月から働かせていただくことになりました。

生まれも育ちも広島です。できることはまだまだ少なく、毎日があっという間に過ぎていきますが、がんばりますので、よろしくお願いいたします。

柏原 稔子（副看護部長）：中央処置室から異動し、4月から10年ぶりの病棟勤務となりました。南4病棟には34名の看護師が勤務しており、新採用看護師を迎え活気にあふれています。患者様に優しく接し、安心して療養して頂ける暖かい病棟にしたいと思います。よろしくお願いいたします。

森藤 愛子（主任看護師）：4月に女性医師2名を迎え、また一段と華やかになった眼科外来です。私事眼科へ異動となり、はや7年目を迎えました。これから日照時間も長くなり、通勤も苦になりませんが、冬場の2～3か月は雪の心配があり、通勤が苦痛です。

石橋 清美（看護師）：今年で眼科外来も3年目になります。眼科の経験がなく、始めはわからない事ばかりで、皆様に迷惑をおかけしました。予約の患者様が多く、忙しい毎日ですが、犬の散歩で体力をつけ、がんばっています。

見田 由紀子（受付）：外来レセプト13年担当して、昨年より受付業務担当です。日々スタッフに助けられ、チーム医療を目標とした診療を心がけています。目下診療情報管理を勉強中です。

堂道 奈津子（視能訓練士）：平成17年に川崎医療福祉大学を卒業後、4月から安佐市民病院に勤務しています。眼科では視力、視野、眼位などの専門的な検査を行っています。普段眼科から出る事は少ないですが、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

森 和秀（視能訓練士）：よく行う検査に視野検査があります。この検査は緑内障や網膜剥離、他にもさまざまな症例に対して行います。症例によってはいろいろな視野の欠け方をするので、これを発見したときに、やりがいを感じます。

眼科は、1日あたりの入院患者数は少ないけれど、入院患者の回転が速く、高齢者も多いため、病棟も結構忙しい状態です。また外来においてもさまざまな検査を必要とし、医師・スタッフ一人ひとりの役割が大変重要であります。優秀なスタッフのおかげでスムーズな診療を行うことができます。これからも眼科をよろしくお願いたします。

眼科外来診療担当表

	月	火	水	木	金
1診	末廣	末廣	末廣	末廣	末廣
2診	石田	石田	石田	石田	石田
3診	北野	北野		北野	

(眼科主任部長 末廣 龍憲)

医師の異動についてお知らせいたします。

《平成21年3月31日付け退職者》

科名	役職	氏名
リハビリテーション科	主任部長	長谷 好記
脳神経外科	部長	佐藤 秀樹
眼科	副部長	地庵 浩司
	医師	板倉 勝昌
泌尿器科	部長	植木 哲裕
外科	部長	山下 芳典
	部長	佐藤 幸雄
	医師	坂部 龍太郎
	医師	清水 誠一
	医師	小林 美恵
神経科	副部長	倉田 健一
	医師	吉原 良子
整形外科	医師	原田 仁
	医師	藤岡 悠樹
	医師	加藤 智弘
内科(消化器)	医師	川瀬 理恵
血液内科	部長	辻本 卓子
	医師	吉田 稚明
心臓血管外科	部長	柴村 英典
	医師	愛新 啓志

《平成21年3月31日付け退職者》

科名	役職	氏名
循環器科	医師	長沼 亨
放射線科	医師	児玉 久幸
産婦人科	医師	佐野 祥子
研修医		板村 真司
		大月 鷹彦
		西村 好史
		信藤 由成



《平成21年4月1日付け採用者》

科名	役職	氏名
神経内科	副部長	山下 拓史
脳神経外科	副部長	川本 行彦
眼科	副部長	石田 由美
	医師	北野 徳子
泌尿器科	医師	加藤 昌生
外科	医師	杉山 陽一
	医師	埜本 純哉
	医師	三村 剛史
	医師	橋本 昌和
	医師	菅野 恵美子
精神科	医師	井上 真一
整形外科	医師	土井 一義
	医師	住吉 範彦
	医師	力田 高德
血液内科	医師	今中 亮太
内科(消化器)	医師	嶋田 賢次郎
心臓血管外科	医師	田村 健太郎
	医師	村尾 直樹
麻酔科	医師	江守 麻子
	医師	三好 寛二
研修医		岩崎 祐亮
		川崎 広平
		高尾 佑子
		中村 有希
		山口 覚博
		松原 佳子

～～ 特別企画 ～～

医療費削減、医師不足等々、地方の医療は崩壊の危機に面しています。このまま、行政の施策を待っているのは、手遅れになるのではと心配です。このような中、新しい地域医療ネットワークが、有志によって立ち上がりました。その名は、「藝州ヘルスケアネットワーク」です。第一回セミナーが、今年1月16日に安佐市民病院講堂で開催されましたので、これを記念して、この会を立ち上げた有志の一人である当院循環器内科の土手慶五先生に、当ネットワークの設立に関して寄稿していただきました。



藝州ヘルスケアネットワーク(Ge-Net)の立ち上げ

—地域医療をギスギスせず、楽しく展開するためのネットワーク作り—

地域再生、食糧自給率の上昇が、国家の重要課題となるなかで、地域医療資源が、エネルギー資源、食糧資源につづいて第Ⅲの重要社会資源であることが認識され、全国各地で地域医療再生の方策が取り組まれております。公共財としての医療資源確保にどのように取り組むかは、“お上”の考えることではなく、観客としてでなく社会自身が考えなければならないことです。

さて、我々広島市立安佐市民病院の置かれている状況をみますと、昨年の総入院件数11,819件のうち、半分は安佐北区、1/4が安佐南区、そして残りの1/4が県北部(山県郡、安芸高田市、三次市、庄原市、島根県邑智郡等)からの入院であり、その傾向は、救急入院患者、悪性腫瘍手術いずれも同様の傾向を示しております。

したがって、当院は広島市立とはいえ、県北、あるいは島根県にまでおよぶ重要な拠点であることがおわかりいただけると存じます。

	総入院	緊急入院	悪性腫瘍手術	地域	人口
	11,819 件	2,647 件	914 件	安芸太田町	8,238 人
安佐北区	5,863 件	1,427 件	485 件	北広島町	20,857 人
安佐南区	2,429 件	567 件	157 件	安芸高田市	33,096 人
県北部	2,315 件	449 件	220 件	安佐北区	152,716 人
				安佐南区	219,343 人

我が国の地域医療、マグネットホスピタル設置の単位として、人口20万人規模が想定されております。安佐北区、山県郡、安芸高田市を合計いたしますと、ちょうど21万人となります。そして、安佐南区でも、当院を積極的に支援して下さるブロック、島根県邑智郡をいれますと、25-30万人くらいが当院の診療圏と考えられます。

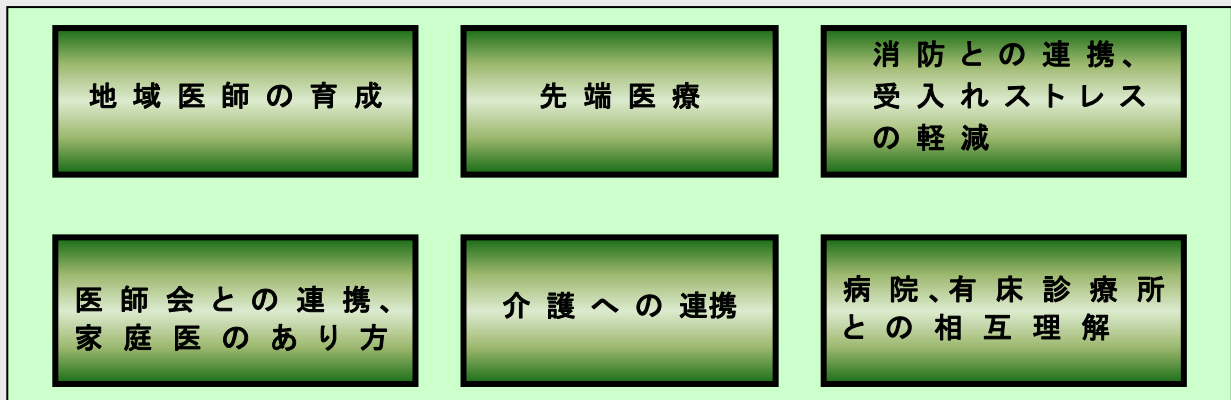
我が国の心筋梗塞(来院時死亡を含む)年間発生率は、人口10万人あたり57人とされております。当院の年間急性心筋梗塞は100例、来院時死亡搬入も100例でその1/3が心筋梗塞としますと、当院に搬入される心筋梗塞は年間130例となり、当院の診療圏は25-30万人であることの妥当性が領けます。

さて、このような医療環境の中で私たちは、どのような努力をあるいは構想を考えていく必要があるのでしょうか？ 地域の中核拠点病院として、我々が果たすべき機能、求められるシステムは何でしょうか？

地域によっては、包括的医師育成機構を、地域単位の規模で作るべきであるとの指摘があります。我々の診療圏で働く医師、特に病院、有床診療所で働く医師を孤立化させないように、大きな組織で支える必要性を感じております。

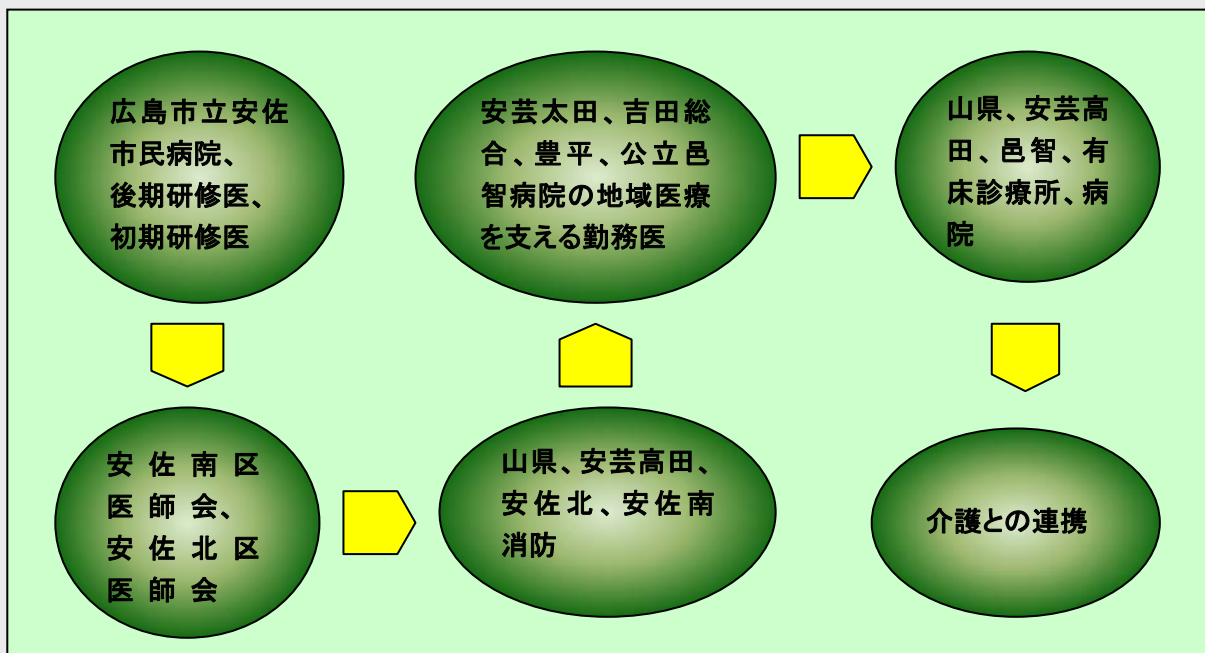
病診連携も、紹介率とか、病院の収益とかといった経済的指標を追求するための方針として

語られてきたように思いますが、そのような連携では立ちゆかなくなっているのが現実です。



平成21年1月16日、広島市立安佐市民病院講堂において第一回 Ge-Net「達人への道セミナー」が開かれました。目的は初期研修医の教育、地域勤務医との交流です。広島市立安佐市民病院初期研修医12名、医師38名、共立病院からも院長、初期研修医2名が参加されました。診療所から3名、広島大学総合診療部から1名、安芸太田病院2名、吉田総合病院2名、雄鹿原診療所1名、計62名の医師が集まりました。

第一回は、腹痛『腹痛』をテーマにしました。臨床教授中西重清先生、総合内科部長の加藤雅也先生、集中治療部主任部長の世良昭彦先生が進行役となり、初期研修医のプレゼンテーションを行い、消化器内科医、外科医、そして自治医大の総合医からコメント、指導をいただきました。



今後は、この医師育成機関としてのネット、救急隊消防とのネット、病院、有床診療所の転院、応援を配慮したネット、さらには看護師、薬剤師、放射線技師、ME、PT、OT、臨床検査技師、栄養士のネット、そして介護とのネット、さらに人的交流のみならず、薬品、材料の共同購入経費削減まで考えるネットへと拡充していきたいと夢想しております。そして、この統合ヘルスケアネットワークを、藝州ネット(Ge-Net)と名付けさせていただきました。

また、2月6日には山県、安芸高田、安佐南、安佐北消防の現場のみなさんと、当院の救急現場の医師との間で、懇親会を開催しました(写真)。救急現場がどのように困っているか、

まずは仲良くなってお互いを知り合おうとの会でした。当院の神経内科部長の黒川勝己先生から脳梗塞のtPA治療、地域連携パス、心臓血管外科主任部長の内田直里先生から大動脈解離の手術、循環器内科部長の佐々木正太先生から失神の鑑別が説明され、消防からは当院での救急受け入れの実態が各病気ごとに報告されました。



多くの医療関係者の皆様が、故郷を憂う熱い気持ちでこのネットに参画していただき、政治、行政、メディア、市民、県民にアピールできる共同体に成長したいと願います。日本古来の守るべき良さを切り捨てたシステムに翻弄されることなく、楽しく働きたいものです。インフォームド・コンセントやエビデンスなどカタカナ英語に苦しめられておられる諸兄、グローバル資本主義、構造改革の片棒をかついだと反省している諸兄、21世紀になって20世紀の方が暮らしやすかったとお嘆きの諸兄、株がさがったとお嘆きの諸兄、是非参画ください！

(循環器内科主任部長 土手 慶五)



*** 放射線治療再開のお知らせ ***

放射線治療再開のお知らせをいたします。

このたびは放射線治療機器更新のため、多大なご迷惑をおかけしました。本年3月初旬から試験稼働を開始し、何とか3月16日から本格稼働しています。シーメンス社製オンコア(TM)は、IMRTのみならず、IGRTが可能な新鋭機です。IMRTは、コンピュータを駆使して照射したくない隣接正常臓器を遮蔽しつつ、照射したい癌病巣に十分な線量の照射が可能になる照射技術です。IGRTは、照射の直前に治療体位のまま照準CTを撮影し、高精度に治療セットアップする治療技術です。この他、オンコア(TM)は、転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療のみでなく、肺腫瘍、肝腫瘍など体幹部の定位放射線治療を呼吸同期法によって施行できます。

今後も、引き続きご紹介いただくと共に、ご協力ご支援よろしくお願いたします。

(放射線科主任部長 赤木 由紀夫)

平成21年1月～3月 病床利用状況

科 別		新入院患者数	退院患者数	平均在院日数
内科	総合内科	12	14	9.5
	循環器科	255	274	9.2
	消化器科	422	420	10.3
	内分泌科	32	36	17.0
	呼吸器科	134	140	20.9
	血液内科	72	83	36.1
	神経内科	77	69	17.9
	内科計	1,004	1,036	13.8
外科		341	341	15.0
整形外科		281	263	21.8
脳神経外科		116	113	20.3
心臓血管外科		100	98	19.9
小児科		113	119	6.4
産婦人科		389	365	8.3
皮膚科		33	34	11.8
泌尿器科		174	156	7.4
耳鼻咽喉科		70	65	8.6
眼科		114	109	7.4
神経科		24	25	28.0
放射線科		29	14	22.3
麻酔科		62	56	3.8
リハビリ科		2	4	60.0
合計		2,852	2,798	13.4

医療連携システム利用状況(件数)

依頼内容	平成21年		
	1月	2月	3月
C T	100	116	110
X 線	4	2	4
M R I	20	22	24
内視鏡(胃)	24	25	33
その他エコー等	10	23	21
外来予約	738	765	908
総計	888	954	1,100
1日平均予約数	46.7	50.2	52.4



医療連携室よりお知らせ

新年度に入り、多くの医師の異動がありました。

医師の交代や医師が減少した診療科もあり、ご迷惑をおかけしていると思いますが、ご理解、ご協力をお願い致します。

緩和ケア認定看護師(日本看護協会認定)が誕生しました。緩和ケアチームを中心に専門的立場から支援します。

〈伊藤 美幸 看護師〉

緩和ケア外来を開設いたしました。

癌疼痛でお困りの患者さまの症状緩和を行っています。担当診療科医師にご連絡ください。

広島市立安佐市民病院 医療連携室
TEL 082-815-5211(内線 3250)
FAX 082-815-5691

『R-ネット瓦版』編集WG
代表 多幾山 渉

